

—データサイエンス活用の裾野を広げる学術交流— 武蔵大学と株式会社アサツー ディ・ケイが学術交流協定を締結

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）と株式会社アサツー ディ・ケイ（東京都港区／社長 植野伸一、以下ADK）は、2017年10月1日に学術交流協定を締結しました。この協定は、学術交流をはじめとする連携と協力を促進するとともに、我が国におけるデータサイエンス活用の裾野を広げ、科学技術および学術研究・教育の発展に寄与することを目的としています。近年、ビッグデータを用いた研究は様々な進められており、今後は、学部・大学院・研究所におけるレベルでの連携・協力まで対象を拡大して取り組んでいく予定です。

株式会社アサツー ディ・ケイとの連携・協力内容

本学術交流協定のもと、本学の社会学部に新設した「グローバル・データサイエンスコース（GDS）」では、ADKが保有する「生活者総合調査」※等の生活者調査データの提供を受け、GDSの授業でリアルマーケットの仮説検証・分析などを行っていく予定です。

また、その他にもGDS受講生に向けてADKから派遣された講師によるデータ分析に関する授業も検討されるなど、両者が連携することでGDS履修生のデータサイエンススキルを醸成していきます。将来的には、GDSの授業に限らず、社会学部のゼミや卒業研究などでもADKから提供されるデータを活用していくよう検討しています。

※ADK生活者総合調査：毎年、関東・関西地区を対象に実施している15,000サンプル規模の大規模調査。生活者をライフスタイル・消費行動・メディア接触など1,000以上の項目により多角的に調査している。これまで十数万件規模で蓄積されたデータは、その分析により多面的側面から捉え、より深いターゲットインサイトを導き出すことを可能としている。

グローバル・データサイエンスコース（GDS）とは？

ビッグデータから社会現象を読み解き、イノベーションを起こす力を養う

近年、日々大量のデータが企業や行政などの組織に蓄積されるビッグデータ時代に入っています。社会学部に2017年4月に新設された「グローバル・データサイエンスコース」は、新しい時代の共通語である「データ」と「英語」をしっかり身に付け、社会と結び付けて分析できる人材を育成する4年間のコースです。1年次は海外英語研修などで英語力を身に付け、2年次ではデータを分析する力を磨きます。培ったスキルを3年次以降は総合的に使える能力として精度を高め、卒業後は、データ分析を必要とされる企業や政府組織など、創造性の高い職種での活躍が期待されます。



↑ 社会学部のゼミで行われているデータ分析の様子

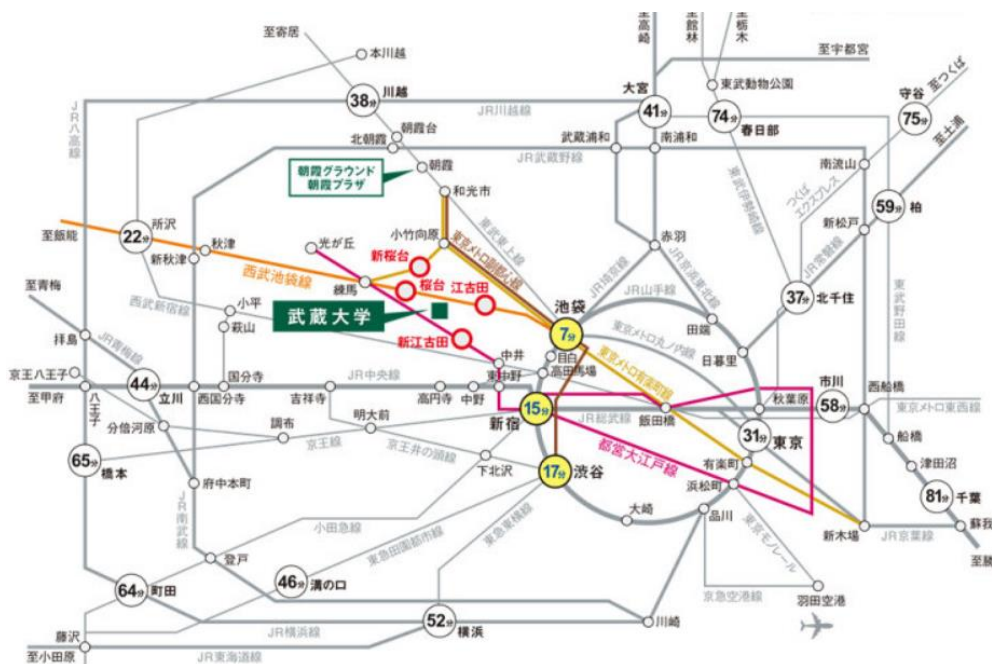
想定される卒業後の進路

GDSコース卒業者の進路としては、グローバル化する社会への対応が必要な企業、政府組織、非営利組織などが考えられます。

■グローバル化に直接かかわる企業 ■商社・金融・証券・保険業 ■一般国内企業の海外進出部門 ■外資系企業の国内スタッフ ■国内中小企業のグローバル対応人材 ■教育機関のグローバル対応人材（国際センター、留学関連部門等） ■国内観光産業 ■広告代理店 ■自治体職員 ■まちづくり系企業 ■コンサルタント（都市計画、人材育成） ■NPONGO職員 ■国際機関職員 ■社会起業家 など

■武蔵大学〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕 ～都心に近く 緑豊かなワンキャンパス～

武蔵大学の前身は、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立旧制七年制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の3学部8学科からなる文系総合大学。一年次から4年間のゼミナルが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。近年ではロンドン大学の学位が取得できるプログラムや国際村の設置などグローバル教育にも力を入れている。
 学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1



—本件に関するお問い合わせ先—

武蔵大学 広報室 担当：山野・齋藤（やまの・さいとう）

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@mml.sec.musashi.ac.jp